

令和 2 年 11 月 20 日発行

漁況予報 い わ し

第 2 2 2 号

【2020 年 11 ~ 12 月漁期】

※1 平年：過去 5 年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、9 月は 3 トンで、前年 (28 トン) および平年^{※1} (125 トン) を大きく下回りました。また、10 月は 22 トンで、前年 (12 トン) 及び平年 (36 トン) 並みとなりました。2 か月合計では 25 トンで、前年 (40 トン) および平年 (162 トン) を下回りました。なお、まき網は、東京湾側では漁獲はなく、相模湾側では9月中旬にのみ小・中羽サイズの漁獲がありました。

魚体は、両月とも 10-13cm (被鱗体長^{※2}、以下同) の 0 歳魚 (2020 年生まれ) 主体で、ウルマイワシに混じる程度の散発的な漁模様となりました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、9 月は 5 トンで、前年 (2 トン) は上回ったものの平年 (28 トン) を下回りました。10 月は 34 トンで、前年 (2 トン) 及び平年 (4 トン) を大きく上回りました。2 か月合計では 39 トンで、前年 (4 トン) および平年 (32 トン) を上回りました。なお、まき網は、東京湾側では漁獲がなく、相模湾側では餌イワシとして両月とも断続的に漁獲されていました。

魚体は、両月ともに 5.5~8 cm の小型未成魚が主体でした。

【シラス】

標本船データにより推定した 9 月の相模湾のシラスの漁獲量は、2 回の台風の影響もあり、好漁だった 8 月から一転して低調となりました (前年比 0.5 倍、平年比 1.0 倍)。

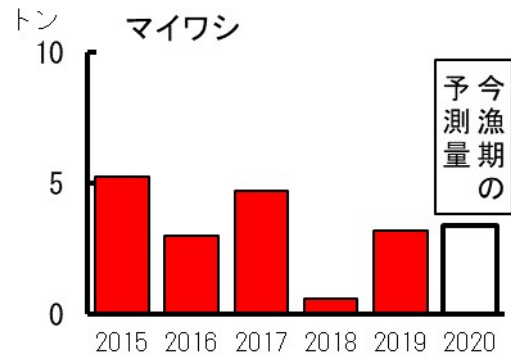
9 月の下旬から漁は好転し始め、10 月に入ると湾内の広い範囲で好漁となり、台風を挟んで中旬に入ると各地で大漁が見られました。コロナ禍の影響もあり 1, 2 回の操業で切り上げるといった獲り控えがあったことや、下旬に入って漁が減ったことにより、漁獲量は昨年を大きく上回ったものの、平年よりやや多い程度にとどまりました (前年比 2.5 倍、平年比 1.2 倍)。

= 予 報 =

過去5年の11・12月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2020年生まれの小羽マイワシ（11～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。漁獲量は、不漁だった前年並の約3トンと予測されます。

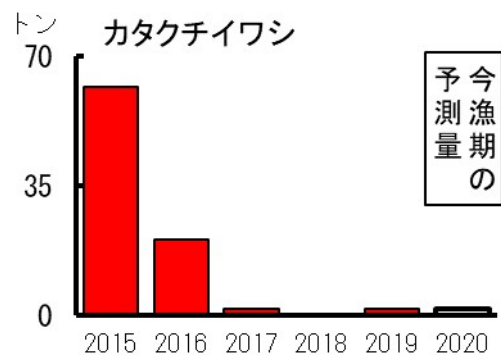


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、2020年生まれの未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

2016年から、夏以降のカタクチイワシ漁獲量は著しく不漁傾向にあり、今漁期の漁獲量も、不漁だった前年並の約2トンと予測されます。

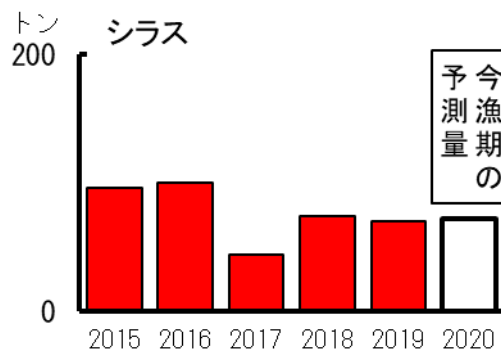


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、8月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

漁獲量は、前年並みの約72トンと予測されますが、不安定になりつつある黒潮大蛇行の北上流路の変動等により、相模湾内の漁場での流速が連続して速まるような場合はシラス漁にとってはマイナス要因として働き、予測を下回るでしょう。



神奈川県水産技術センター 栽培推進部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2314